

特別支援教育コーナー 校内における環境調整の工夫 ～主体的な取組につなげる「分かる」「できる」を促す支援～

学習面のつまづきや行動上の問題の背景に、周囲の環境に影響されやすい発達障がいの特徴が関係していることもあります。校内環境の整備は児童生徒等の「分かる」「できる」を支える大切な視点になります。LD等専門員の巡回相談時に活用している「学級環境を整える4つのポイントチェック表」を使って各校の取組を紹介しますので、校内における環境調整に生かしてください。



チェック表には、参考となる4つの視点が示されています。

学級環境を整える4つのポイントチェック表

学級環境を整える4つのポイント	チェック表	いつもできている	ときどきできている	できていない
1 場・時間の構造化	① 教室内の物の置き場所を決め、整理整頓されている。(そうきん、掃除道具、白衣、水彩道具、引き出しやロッカーの中、登校後提出するものなど) ② 児童生徒が見通しを持って活動できるように提示されている。(月・週・一日の予定を示す。変更は口頭でなく板書して伝える。) ③ 終わりがはっきりわかるような指示の出し方をしている。(「プリントは2枚です」「あと5分で終了です」など)			
2 刺激量の調整	④ 教室の前面の壁の掲示は、学習中の集中を妨げないようなものにしている。 ⑤ 教室内・外の刺激となる音が、できるだけ入らないよう配慮している。(水桶の音、となりの教室の音など)			
3 ルールの明確化	⑥ 当番活動などの役割について、分かりやすく示している。(日直、係、当番、委員会などについて、いつ、だれが、どこで、どのように、など) ⑦ 学級内のルールは、わかりやすく実行しやすいものになっている。(座り方、声の大きさ、登校後にすること、机上の整頓、発表の仕方、話し合い活動の仕方、体育での集合の仕方など)			
4 お互いを認め合う工夫	⑧ 個々の目標を明確にして、継続した指導を行っている。(「〇〇さんは、△△をめざしてがんばっている」ということが学級内で共有されている。) ⑨ 座席やグループ編成において、落ちこぼれて生活できる場となり、わかり合えるような友だちがいるよう配慮している。 ⑩ 学級の状況や方向性について、保護者会などで理解が得られるように説明している。(学級通信で学級の様子を伝えたり、懇談会で学級目標や児童生徒の様子などを保護者と話し合ったりすることなど)			

このチェック表はLD等専門員の巡回相談で、各校に活用いただいています。データは既に送付していますが、掲載のQRコード(東部教育局HP)からもダウンロードできます。



項目ごとに確認できるようにになっています。定期的に振り返ったり、取組の工夫を校内で共有したりするなど、効果的に活用いただいています。

- 1 場・時間の構造化**
日常の周囲の環境(時間、場所、空間、手続きなど)を分かりやすく視覚的に整理します。
- 2 刺激量の調整**
集中や注意の持続を促すためには、静かな環境や掲示物の場所や量を調整するなどの配慮が必要です。
- 3 ルールの明確化**
言葉で言われたこと、暗黙の了解など、目に見えないことを見えるように視覚化し、共有・確認します。
- 4 お互いを認め合う工夫**
お互いを認め合うことができれば、とても居心地のよい学級環境となります。

特別支援教育主任のための手引 P21より (平成28年3月東部教育局)



まずは、「場・時間の構造化」について、紹介します。

◇ 場(空間)の構造化

場(空間)の使い方を、視覚的に文字や写真などで示したり、空間を区切ったりすることで、整理整頓の仕方を教えます。



空間認知の弱さや整理整頓の経験不足から、自分なりのやり方ですませてしまう場合があります。構造化の工夫は、空間を活用するコツを学ぶことにもつながります。

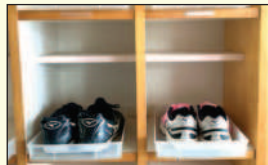
◇ 時間や手順の構造化

いつ、なにを、どれだけするのかなど、授業の流れやすべき内容などを視覚的に伝えることで、次の活動を予測して行動することができます。この見通しは安心感にもつながります。

すべての学級で時計ボードやタイマーなどを準備し、授業の流れを視覚化。矢印で現在の活動を確認できる。



市内 学校より

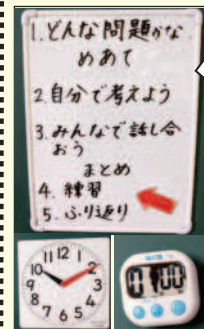


郡部 学校より

用途が異なる雑巾の整理に、空間をうまく利用。



市内 学校より



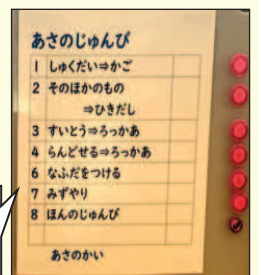
郡部 学校より



「通常学級での特別支援教育のスタンダード」
小貫悟著 東京書籍より

靴の置き場所にシートを活用。

個別に掲示して気づきを促す取組。
※教卓壁面を利用。



郡部 学校より

2 刺激量の調整



その他の3つの視点について見てみましょう。

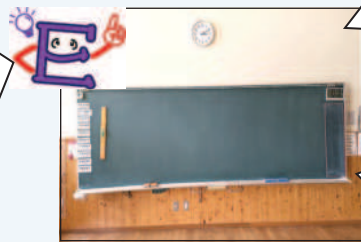


市内 学校より

光や温度などにストレスを感じやすい児童生徒等もある。廊下の窓に寒冷紗をかぶせ、校舎内に入る直射日光を和らげる工夫。

◇ 刺激をスッキリさせて心もスッキリ

色合いやコントラストの強い色調などにより、児童生徒等がストレスを感じやすくなります。学級掲示の作成時に、そうした色調に気を付けることを校内校で共有している学校もあります。



郡部 学校より

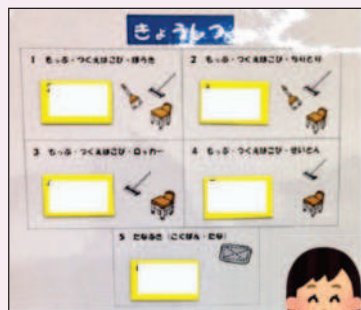
前面の掲示物は必要最小限にし、必要な情報（板書や教示の内容など）に注意を向けることができるようする。

棚や授業中に関係のない掲示物などにカーテンをする工夫もある。

◇ その他、配慮するとよい刺激例

- ・音（机椅子のきしみ、水槽のポンプ音、放送の音量等）
- ・教師の声（速さ、大きさ、口調等）
- ・人刺激（集中しやすい、安心して過ごせる等に配慮した座席の位置等）

3 ルールの明確化



郡部 学校より

◇ 当番活動などの役割の明確化

いつ、なにを、どこで、だれが、どのように行うのかなど、役割を理解し、確実な実行を促します。

掃除場所について、だれが、どこを、何を使うのかを視覚化。

実態に応じてイラストを付け加えるなどの工夫があります。分かるようになって、気づきを促すことで十分なので、簡素化もできます。



郡部 学校より

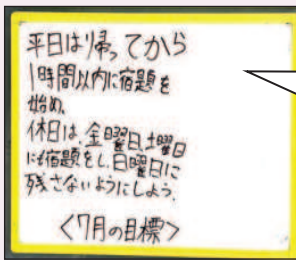
一人一役を視覚化。自画像をかくことで役割への意識を高めることができる。

実行後はカードを裏返すことで、役割の遂行状況が確認できます。カードの裏側の「ありがとう。」などのメッセージが貢献感を育みます。



◇ 自他ともに気持ちよく安心して過ごすためのルールの明確化

解釈の違いや理解不足等からルールの共有が難しい場合があります。理解していても気付けない児童生徒等もあり、ルールを明確にし視覚化することは、確実な理解や共有につながります。



郡部 学校より

学級目標を記載。自己評価や班で改善方法を話し合うことで目標の意識化を図る。

足形があることで、止まることの必要性に気付くことができる。



市内 学校より



特別支援学級団で、気持ちよく過ごすためのルールを子どもと共有。カードの色を見るだけで確認したルールに気付くことができる。

緑カードで、望ましい行動についても共有しているところがポイントです。

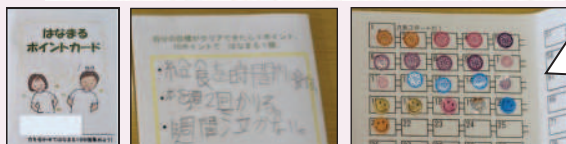
望ましい行動もあわせて確認しているため、がんばりやよさを伝える機会が増え、ルールへの意識も高まります。



4 お互いを認め合う工夫

「学習環境」は集団という人的要素を含むことから、一人一人のがんばりをお互いが理解し、協力したり応援したりする取組も大切になります。

◇ 市内小学校の特別支援学級団での取組



一人一人が目標を決め、できたときには報告して花丸ポイントをゲットします。教室に掲示してあるので、いつでも確認ができます。

花丸ポイントを10個集めて花丸カードをゲット。花丸カードを集めて開催できるお楽しみに向け、声をかけ合う姿も見られる。

月1回、よさやがんばりを学級や玄関に掲載し、学校全体で共有する取組です。



市内 学校より



自立や社会参加に向けた主体的な取組を促す上で、校内における環境を整える視点は大切です。今回紹介したチェック表を活用するなどして、校内や学級の環境を定期的に確認してみましょう。同じテーマで8月に『かたりば』を開催しました。資料を『かたりば』のクラスルームに掲載（クラスコード【gky3vh3】）していますのでご活用ください。